

床屋

宮沢賢治

青空文庫

本郷区菊坂町

※

九時過ぎたので、床屋の弟子の微かすかな疲れと睡ねむけ気がふつと青白く鏡にかゝり、室へやは何だ
 かがらんとしてゐる。

「俺おれは小さい時分何でも馬のバリカンで刈られたことがあるな。」

「えゝ、ございませう。あのバリカンは今でも中国の方ではみな使つて居をります。」

「床屋で？」

「さうです。」

「それははじめて聞いたな。」

「大阪でも前は矢張りあれを使ひました。今でも普通のと半々位でせう。」

「さうかな。」

「お郷くに国はどちらで居らっしゃいますか。」

「岩手県だ。」

「はあ、やはり前はあいつを使ひましたんですか。」

「いゝや、床屋ぢや使はなかつたよ。俺は大抵野原で頭を刈つて貰つたのだ。」

「はあ、なるほど。あれは原理は普通のと変つて居りませんがね。一方の齒しか動かないので。」

「それはさうだらう。両方動いちやだめだ。」

「えゝ、嚙かじつちまひます。」

※

鏡の睡気は払はれて青く明るくなり今度は香油の瓶びんがそれを受け取つてぼんやりなつた。

「失礼ですがあなたはどちらに出ていらつしやいますか。」

「図書館だ。」

「事務員ですか。」

「いゝや、頼まれて調べてゐるんだ。」

※

瓦斯の灯が急に明るくなった。

「僕のひげは物になるだらうか。」

「なりますとも。」

「さうかなあ。」

「もう少し濃いといゝひげになるんだがなあ、かう云ふ工合ぐあひに。剃そらないで置きませうか。」

「いゝや、だめだよ。僕はね、きつと流行はやるやうな新しい鬚ひげの型を知ってるんだよ。」

「どんなんですか。」

「それはね。実は昔の西域のやり方なんだよ。斯かう云ふ工合に途中で円い波を一つうねらしてね、それからはじめを又円くピンとはねさすんだよ。こいつあ流行るぜ。」

「今どこで流行つてゐますか。」

「アイデア界だ。きつとこつちへもだんだん来るよ。」

「アイデア界。プラトンのアイデア界ですか。いや。アツハツハ。」

「アツハツハ。君。どうせ顔なんか大体でいゝよ。」

※

青空文庫情報

底本：「新修宮沢賢治全集 第十四巻」筑摩書房

1980（昭和55）年5月15日初版第1刷発行

1983（昭和58）年1月20日初版第4刷発行

入力：林 幸雄

校正：mayu

2003年1月10日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

床屋

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>